使

三年

画数 8

筆順 亻 佗 伊 使

オン シ

クン つかーう

成り立ち

〝中〟という字を手でにぎった形をあらわした〝史（4年530）〟に〝亻〟をくわえて作った字の〝吏〟と〝人〟とを組み合わせて作った字です。

〝吏〟は、「ものごとをかたよらずにこうへいにしょりする〝役人〟」をあらわした字で、これに〝亻〟をくわえて、「役人が人をつかってしごとをすること」をあらわしたものです。

「人を〝つかう〟」といういみの字です。

また、「ものを〝つかう〟」といういみにもつかいます。

使い方

▽えんぴつは、字を書くときに使います。

▽えんぴつをけずるとき、ぼくはナイフを使います。さいしょは、使い方がちょっとむずかしかったけれど、なれると、そうでもありません。

熟語例

▽使用（使い用いること。使うこと。「使用ずみの紙などは、きちんとごみ入れに、すてましょう」などというふうに、つかいます。）

▽使役（人を使って、しごとをさせること。「むかし、エジプトの王さまは、人民を使役して、ピラミッドをきずきました」などというふうに、つかいます。）

▽行使（じっさいに使うこと。「実力行使におよぶ」などというふうに、つかいます。）

▽使者（使いをする者。めいれいをうけたり、手紙をもったりして、お使いに行く人。「長くせんそうしていた国から、平和の使者がやって来た」などというふうに、つかいます。）

▽天使（天の使い。人間のねがいを神につたえたり、神の心を人間につたえたりする、神のお使い）

始

三年

画数 8

筆順 ⺡ 妗 始

オン シ

クン はじ＝める＝まる

成り立ち

胎（子宮といって、子どもがやどるところ）のいみの〝台〟と、女（1年38）のすがたをあらわした〝女〟とを組み合わせて、「人のいのちが女の胎内から〝始まる〟こと」をあらわしたものです。

広く「ものごとが〝始まる〟こと」、また「ものごとを〝始める〟こと」といういみにつかわれます。例開始、始業（式）、創始（者）。

また、〝初（4年542）め〟〝始まり〟といういみにつかわれます。例年始、始祖。

使い方

▽授業が始まる時間になったので、みんな教室に入って、しずかに先生を待ちました。

▽おかあさんが、ししゅうを始めることにしました。ハンカチに、きれいなピンクや黄色の糸を、ししゅうするのだそうです。早く、ししゅうを始めるのを見たいと思います。

熟語例

▽開始（始まること。また、始めること。「野球の試合が開始されました」などというふうに、つかいます。）

▽始業（しごとや授業を始めること。「三学期の始業式が行われた」などというふうに、つかいます。）

▽創始（ものごとを始めること。「創始者」といえば、あるものごとを、始めた人のことです。「慶応義塾大学の創始者は、福沢諭吉です」などというふうに、つかいます。）

▽年始（年の初め。「年始のあいさつに行く」などというふうに、つかいます。）

▽始祖（始めた人。元祖。「禅宗の始祖は、達磨大師です」などというふうに、つかいます。）